

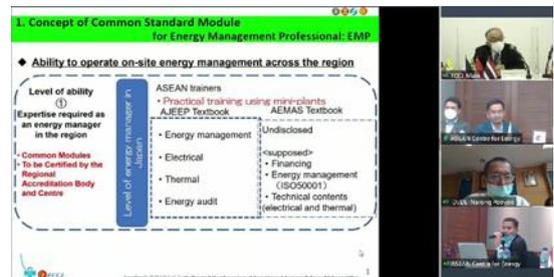
## 令和4年度 ASEAN向け省エネ支援事業の 最終会合を実施しました

一般財団法人省エネルギーセンターは、経済産業省の委託（新興国等におけるエネルギー使用合理化等に資する事業・省エネルギー人材育成事業）を受けて、本年度のAJEEP（ASEAN-JAPAN Energy Efficiency Partnership）の最終会合を2023年3月1日-2日の2日間、インドネシアのジャカルタと各国を結んで開催し、2022年度の諸活動の成果と課題について討議を行いました。

- (1) スキーム4（ASEANにおける持続的なエネルギー管理士育成認定制度（SAEMAS）の構築）については、各国制度の比較・分析を通じて策定したASEAN共通のエネルギー管理研修プログラム構成案の確認を行いました。
- (2) スキーム5（カーボンニュートラル（CN）に向けたビル・産業・運輸部門における先進的なエネルギー管理・技術の導入促進）については、CN診断の具体的内容やCNプロジェクトの事例の紹介を通じて、本スキーム活動に関する理解を深めました。また、次年度から実施する各国でのCN診断候補選定の進捗状況を確認しました。



関係者挨拶（左から）  
タイ、ECCJ、ASEAN Centre for Energy、インドネシア



スキーム4の討議

今年度から開始したスキーム4及びスキーム5の活動と成果の確認、課題の明確化、及び今後の展開を協議するため、対面とオンラインのハイブリッド会議を開催しました。ASEANの省エネルギー部会（EE&C-SSN）の各国代表及びASEAN Centre for Energy（ACE）が参加し、以下の確認と協議を行いました。

- (1) スキーム4は、受入研修（ECAP27）と3回のSAEMASワーキンググループ（WG）オンライン会議、セミナーを開催。WGの活動成果としての①ASEAN各国が整備する省エネ法制度やエネルギー管理士育成認定制度を比較・分析したComparative Reportのドラフトと②SAEMASの人材育成レベルの一つであるASEAN共通の標準エネルギー管理研修プログラムの構成案、について最終確認を実施。
- (2) スキーム5は、先進的なエネルギー管理を可能とするCN診断を理解するためのキックオフミーティング、CN診断セミナーを開催。また、2つの受入研修（ECAP28：産業・運輸分野、ECAP29：ビル分野）で日本の産業・運輸部門のCNIに関する管理・経営手法やZEB普及の政策について理解を促進。特に、各国は2023年度から開始するCN診断候補について選定を進めてきた。
- (3) 上記のほか、JASE-WがビルのCNIに向けたZEBの概念や要素技術の紹介、JETROジャカルタオフィスからインドネシアにおける日系企業による脱炭素プロジェクトの実施例についての情報提供が行われた。

以上により、2022年度の活動と成果の確認が行われました。今後の展開としては、スキーム4は本会議での意見をもとに、Comparative Reportの最終化、ASEAN共通の標準エネルギー管理研修構成内容の修正とレベル設定、テキストの策定を行うこと、また、スキーム5は2023年度に実施するCN診断先2地点の選定を急ぐこと、等が合意されました。